

日本精神保健社会学会

発行 2023 年 12 月 20 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第 80 号

TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：山口豊

編集委員長：塩谷育子

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

会員の皆様、今年も残すところあと少しとなりました。今回のニュースレターは、第29回の学術大会のご報告と総会において議決しました新理事の紹介及び新学会長のご挨拶をお届けします。第29回の学術大会は、昨年引き続き、オンラインにて開催しました。

第 29 回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

第 29 回 学術大会実行委員長 服部 万里子

(服部メディカル研究所 所長)



学術大会は 2023 年 11 月 23 日(木・祝日)に昨年と同様にオンライン(ZOOM)で 10:00~17:00 まで開催されました。大会テーマは「メンタルレジリエンスを育む社会」です。午前中に研究発表、昼の総会を挟み、午後にシンポジウムとディスカッションが行われました。

学術大会の総合司会は、山口豊(東京情報大学教授)により行われました。午前に研究発表が塩谷育子(園田学園女子大学准教授)と山本美奈子(山形大学学術研究院)の司会で3演題行われました。

<一般研究発表 1>

テーマ『地域包括ケアシステムにおけるメンタルレジリエンスを高めるカフェ活動地域ケアカフェ協働の継続と区の認知症当事者カフェ「認知症本人ミーティング」』 鈴木裕子(千代田区保健福祉課在宅支援課)

この発表では「人生会議」に参加している人と、当事者カフェに参加する認知症の人の

家族の会を対象に、実践してきた内容を振り返りカフェ活動の実践を評価し、話し合いの場やボランティアなどの支援者の相互がメンタルレジリエンスの向上に繋がったことが述べられた。

<一般研究発表 2>

テーマ『自己愛と心理的健康に関する研究－自己愛の下位側面と自尊心及び抑うつとの関係－』 柴田波音（東京情報大学総合情報学部）、山口豊（東京情報大学大学院）

この発表では自己愛は自己の肯定的評価と似た性質をもち心理的健康に良い影響を及ぼすことに関して、自己愛と自尊心、抑うつとの関係を調査している。大学生を対象に質問紙調査を行い、データを収集、分析し発表された。

<一般研究発表 3>

テーマ『コロナ禍における保育者の心の健康に関する調査研究－感染症流行下での保育者の意識やコミュニケーションに着目して－』 向笠京子（昭和女子大学人間社会学部 国立看護大学校研究課程部）

ここではコロナ感染症の時期に保育者 5000 人を対象に、無記名記述式質問法で 5 件法による調査を行った。コロナ禍の感染症対策では保育園の職員同士のコミュニケーションをよくすること、それを保育者と共有する相互のコミュニケーションが感染症発生時に危機管理として有効であったことがまとめられている。

午後には基調講演が「メンタルレジリエンスを育む社会」のテーマで宗像恒次日本精神保健学会会長（筑波大学名誉教授）より行われました。

宗像会長は、自分の精神的課題を自ら解決するレジリエンスを持つには、自らの情緒的安定、事実の原因を自ら深める力、同じ問題をくり返さない問題解決力を持つ事の大切さを述べられました。そしてそれを実践できる社会環境を育むことの必要性を述べられました。

シンポジウムは中嶋一恵（SAT情報認知行動療法研究所）の司会進行で開催されました。

<シンポジスト 1>

テーマ『子ども期の逆境体験と保護的体験による青年期のこころの健康』 山之内靖子先生（東京情報大学看護学部准教授）

青年期の心身の健康に対する子ども期の体験の影響に関して述べられました。特に子ど

も期の心身の痛みの体験や慢性疾患がレジリエンスに影響を与えることを調査から述べられました。

<シンポジスト 2>

テーマ『企業の効果的なメンタル対策を根本的に考える』山本潤一先生（日本メンタル再生研究所所長 有限会社光海カンパニー代表取締役）

山本氏は経営者個人向けのメンタル支援や企業向けのメンタル対策を実践してきた経験からメンタルに問題を持つ人が増加している現状に対して発表されました。企業経営では特に仕事を通じてメンタル面での支援をすることが人との関係づくりに不可欠であることをお話しされました。

<シンポジスト 3>

テーマ『日本文化の特性を生かしたメンタルレジリエンスの育て方について検討』野本薫史先生（朝日パーソナリティ・センター代表）

現代社会の宅配、コンビニエンスストア、ZOOM やスマホなど生活環境の急激な変化の中で、対人関係の悩みや恐怖より、IT 関係の相談やストレスが増えてきたことに注目し、今後、メンタルレジリエンス、日本文化の特性との関係でどのように育んでいくのかに関して考察が発表された。

その後全体のディスカッションを行い、日本精神保健社会学会第 29 回学術大会を閉会しました。

運営委員改選

第 29 回学会大会総会において、役員が選任され決議されましたので、お知らせ致します。

会長	山口 豊	東京情報大学大学院 教授
副会長	服部万里子	服部メディカル研究所 所長
副会長	殿山 希	筑波技術大学 名誉教授
理事	上田 敏子	愛媛大学 教育学部 准教授
理事	窪田 辰政	静岡県立大学 薬学部 准教授
理事	塩谷 育子	園田学園女子大学 人間健康学部 准教授
理事	鈴木 裕子	千代田区役所
理事	山野内靖子	東京情報大学看護学部 准教授
理事	笹原 恭子	NPO 渋谷介護サポートセンター
理事	檜垣 昌也	聖徳大学短期大学部 准教授
理事	杉本 洋	新潟医療福祉大学 看護学部 教授
理事	綿貫 良彦	綿貫カウンセリング事務所
理事	向笠 京子	昭和女子大学 人間社会学部 准教授
監事	野本 薫史	APC 朝日パーソナリティ・センター 代表
監事	根本 典子	学校法人敬心学園日本福祉教育専門学校 精神保健福祉士養成科学科長（嘱託教員）
事務局長	村上 章子	東京メンタルヘルス 相談役

名誉会長	宗像 恒次	筑波大学発ベンチャー（株）SDS 筑波大学名誉教授
顧問	武藤 清栄	東京メンタルヘルス 所長
顧問	畠中 宗一	関西福祉科学大学大学院 教授
顧問	中嶋 一恵	筑波大学発ベンチャー（株）SDS

会長就任の挨拶

学会会長 山口 豊

(東京情報大学大学院 ヘルスケア情報系列 教授)

専門：臨床心理学・ヘルスカウンセリング学

会員のみなさま、新しく本学会の会長を拝命することになった東京情報大学の山口豊です。これまでは理事として、学会運営に参加してきました。やっと慣れてきたところですが、本学会会長ということで、その重責を感じています。

これまで、本学会を支えていただいた宗像会長、武藤副会長、畠中副会長には、心から感謝の意を申し上げたいと思います。先生方のように、本学会を運営していくことは容易なことではありませんが、微力ながら、理事・会員の皆さまと協力し本学会の発展に尽くしたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

はじめに、簡単に自己紹介をさせて下さい。私は、大学教員になる前には高校教員を務めていました。途中、臨床心理士養成の大学院修士課程を修了し、宗像先生の勤務されていた筑波大学大学院博士課程ヒューマン・ケア科学専攻に入学し、主としてヘルスカウンセリング学（SAT 法）の理論と技法を学びました。専門領域は「臨床心理学・ヘルスカウンセリング学」です。また、公認心理師・臨床心理士などの臨床系資格も取得し、勤務校で臨床心理学の教育と研究を担当しながら、学生相談室心理カウンセラーも兼ねています。

私は、もともと人間を内側から理解し、「人間とは何か」「どう生きればいいのか」の探求に関心を持ってきました。人間の心を探求する「臨床心理学・ヘルスカウンセリング学」は、私にとっては魅力的な学問領域です。加えて、東洋文化、特にインド由来の伝承文化にも関心を持っています。仏教・ヒンドゥー教の哲学や修行、アーユルヴェーダによる心身健康支援には、現代人が見失ってしまった生き方の価値感や健康の智慧が残されています。そのような伝承文化の復権にも尽力したいと考えています。

生き方の指針を学べない人は、方向性を見失い、自己中心的な人生の価値観をもってしまいます。「人を殺して、何故悪い？」という問いが、以前取り上げられていました。その回答を聞いていても、腑に落ちることはありませんでした。本学会は、「メンタルヘルス」支援を中心に、学際的で心理学、社会学、看護学、福祉学、健康科学など広い範囲をカバーしています。「人間学」「哲学」や「臨床の知」を学び研究する可能性も開かれています。そのような意味において、生き方を探求できる本学会の存在意義は大きいものがあります。

会員のみなさまには、本学会で、ぜひ知見をご紹介ください。そして、学術大会・学会誌・ニューズレターに参加・投稿してください。毎年本学会の学術大会は、毎回貴重な講演・シンポジウム・ディスカッション・研究発表があり、好評を博しています。自己紹介を兼ねた、つたない文章となりました。今後、本学会が盛大に発展しますことを祈念し、挨拶に代えさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。2022年度の年会費は、2022年10月1日から2023年9月30日の期間です。また、2023年度の年会費は、2023年10月1日から2024年9月30日の期間です。既にご入金を頂きました会員の皆さま、ありがとうございました。

2022年度、2023年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いいたします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 30」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しています。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしています。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：2024年7月16日(火) 厳守

●投稿規定：詳細は、本学会ホームページ

[日本精神保健社会学会 \(www.jamhs.org\)](http://www.jamhs.org)

投稿規定をご確認ください。

●送付方法および送付先

* 郵送のみの受付になります。

〒171-0021

東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上宛



日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金: 5,000 円

年会費: 通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先: 郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ氏名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名及び住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
自宅住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
所属系(○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			